

日本軍は毒ガス戦をいかに準備したか

第一次大戦でヨーロッパ各国が毒ガスを使用したことに、日本の軍部は多大な関心を寄せた。まず、1918年に陸軍軍医学校で化学兵器研究室ができる。当時、一等軍医だった小泉親彦がその責任者に就任した。

同じ頃、シベリア出兵で毒ガス戦の装備を必要と判断した軍は、臨時毒瓦斯委員会を発足させた。小泉もこの委員会の委員で、主に防毒の研究を進め、新式の防毒マスクを開発した。これらのマスクはシベリアに約2万個送られた。

日本は1917年の時点で、すでに塩素ガスを造る技術を持っていたが、さらに本格的な兵器を研究する機関が必要だと考えていた。そこで1919年、陸軍科学研究所が創設され、臨時毒瓦斯委員会の主力メンバーはここに入った。久村種樹中佐らは独・仏・米へ視察に行き、化学兵器製造を緊急の課題だと日本軍部に説いた。

一方、同研究所内には1927年、秘密戦資材研究室が作られ、後に川崎市登戸に移転し、陸軍登戸研究所となった。その後、ここで開発された毒物は、軍事防疫給水部から中国の南京へ送られ、栄1644部隊でも人体実験が行われた。

1929年、広島の大久野島に陸軍造兵廠忠海兵器



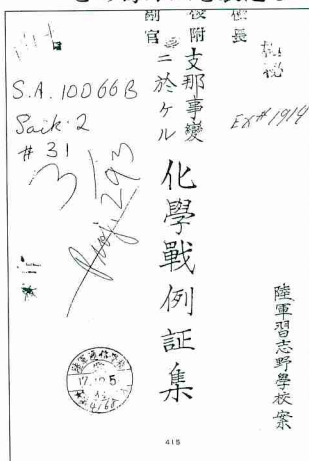
陸軍習志野学校の営門
(戸井昌造著「戦争案内」はくは20歳だった」晶文社、1986年より)

製造所ができると、日本の毒ガス製造は大量生産時代に入る。大久野島では、発煙筒のようにして毒ガスを放射する兵器を500発以上製造したほか、毒ガスそのものを福岡県の門司港近くの曾根兵器製造所に運搬して砲弾につめ、兵器化された毒ガスは中国へ送られたのである。

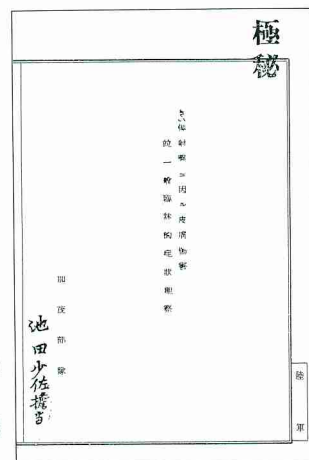
ほぼ同時に1933年、千葉に陸軍習志野学校が創設され、化学戦の指導将校を養成し始める。ここで約1万人の将校・下士官が終戦までに生まれ、中国に渡った。

中国東部のチチハルでは関東軍技術部の化学兵器班から、化学部(516部隊)が1939年に新設された。ここでは毒ガス戦の実験演習も行われ、練習隊(526部隊)もフラルキに作られた。

また、海軍も陸軍と密接に関係を保っており、1943年には相模海軍工廠を設立し、イペリットなどの毒ガスを製造している。



神田の古書店で発見された七三一部隊(加茂部隊)「きい弾射撃二因ル皮膚傷害並一般臨床的症状観察」

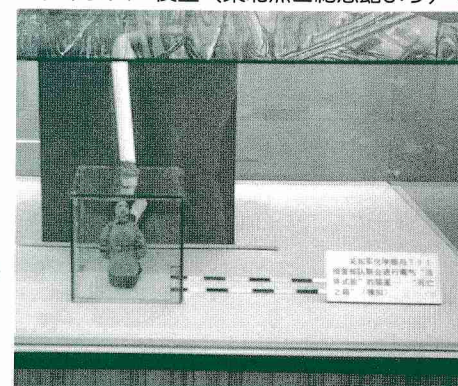


アメリカの国立公文書館で発見された、陸軍習志野学校案「支那事変二於ケル化学戦例証集」

日本軍の毒ガス戦関係施設



731部隊による毒ガス人体実験用ガスチャンパー模型(東北烈士記念館より) ↓



Q. あの悪名高い731部隊は、毒ガス戦とどのような関わりを持っていたのですか?

A. 731部隊(関東軍防疫給水部)は医学関係者が責任となり、細菌兵器開発や毒ガス兵器の効力を試すための研究・実験を行ってました。人体実験に使う外国人(マルタと呼ばれた)も常に確保していたので、毒ガス兵器の運用実験などを進めた516部隊(関東軍化学部)は731部隊と連携して、毒ガスの実験をしていました。1940年9月7日から10日にかけて、イペリットガス弾を人体へ向けて発射した実験や各種毒ガスの水溶液を人間に飲ませた実験をまとめた日本軍公文書が見つっています。

◆年表 2◆

- 1919年 ベルサイユ講和条約成立
- " 国際連盟結成(1920年発足)
- " 関東軍設置
- " 陸軍科学研究所設立、組織的な化学戦の研究に着手
- " 中国、5・4運動、北京から広がる
- " 中国国民党成立
- 1920年 国際連盟成立(～46年)
- 1921年 中国共産党成立
- 1923年 中国、日本に21カ条条約破棄通告
- " 関東大震災
- 1925年 日本、ジュネーブ毒ガス議定書に調印(批准は1970年) 毒ガスと細菌兵器の戦争使用を禁止することを宣言
- " 普通選挙法成立
- " 治安維持法公布
- 1926年 参謀本部に毒瓦斯研究委員会設置(1929年 化学戦委員会へ)
- 1927年 金融恐慌
- 1928年 関東軍が張作霖を爆殺
- 1929年 陸軍造兵廠忠海兵器製造所設立
- " 世界恐慌始まる
- 1930年 霧社事件 台湾で抗日武装蜂起 日本軍は鎮圧に毒ガスを使用した
- 1931年 日本軍、中国東北部侵略(満州事変)
- 1932年 傀儡国家「満州国」の建国宣言
- " 5・15事件 海軍青年将校と陸軍士官学校生徒らが犬養首相を暗殺
- " 陸軍軍医学校に防疫研究室できる
- " リットン調査団報告書 日本へ提出
- 1933年 国際連盟 満州国を否定
- " 日本が国際連盟脱退を通告
- " 陸軍習志野学校設立、毒ガス戦の運用教育訓練開始
- " 関東軍防疫班(731部隊の前身)、背蔭河に細菌工場建設
- " ドイツ、ナチス政権成立
- 1935年 イタリア、エチオピアに対し大量の毒ガス攻撃(死傷者推定1万5千人)
- ～36年 ロンドン軍縮会議から脱退
- 1936年 2・26事件 陸軍青年将校らが軍・政府要人を襲撃殺害
- 陸軍習志野学校、毒ガスを準備
- " 日独防共協定調印

陸軍習志野学校跡(中和塔)